



たづがね (鵲が音)

「笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢いっぱい」の西北台っ子



3学期もご理解ご協力よろしくお願いします

新年明けましておめでとうございます。皆様にとって素敵な2025年になりますように、心から願っております。

いよいよ3学期がスタートしました。3学期は市学力調査を皮切りに、書き初め大会、感謝の会、送る会、卒業式など2学期同様に子どもの成長を感じられる行事があります。学年のまとめの学期としてとても大切な3ヶ月間です。1月は「行く」2月は「逃げる」3月は「去る」と言われ、あっという間に過ぎ去っていく印象があります。その日の目標を考えながら、仲間や時間、空間、手間（四間）を大切にしながら、子どものより一層の成長を手助けできるように、教職員一丸となり教育活動の充実を図っていきます。何とぞよろしくお願いします。

1年の計は元旦にあり

由来：①中国の明代に憑慶京（ひょうおうきょう）という学者によって著された書物「月令広義」です。「月令広義」は中国の伝統的な年中行事やしきたりが解説されているもので、その中に「一日の計は晨にあり、一年の計は春にあり」という一文が記載されています。晨は「あした」と読み朝のことを指すもので、朝と書くこともあります。春は正月を意味していて、全体では、一日の初めである朝や一年の初めである正月にこそ計画を立てるべきである、という戒めです。なお、一日は「いちにち」や「ついたち」ではなく「いちじつ」と読むのが正解です。「一日の計は晨にあり、一年の計は春にあり」のあとには、「一生の計は勤にあり、一家の計は身にあり」という言葉が続きます。全体では初頭に計画を立てることで日々の充実度が決まり、勤勉に働くことで一生が決まり、健康維持によって一家の行く末が決まるという意味合いになります。この中の「一日の計」「一年の計」「一生の計」「一家の計」を合わせて「四計」といい、よき人生の設計に欠かせない大切な計画とされているものです。

②毛利元就が語ったとされている「一年の計は春にあり、一月の計は朔にあり、一日の計は鶏鳴にあり」があります。朔は「ついたち」と読み、月初めの日のことです。また鶏鳴は「けいめい」と読み、鶏の鳴き声のことから一番鶏が鳴く早朝のことを指す言葉です。毛利元就の言葉は、一年、一月、一日それぞれの最初の時こそが計画を立てるべきときであるということを使ったもので、何事も最初が肝心であるという戒めを意味しています。

【TRANS.Biz <https://biz.trans-suite.jp>】より

皆さん元旦（元日の朝）に、どのような計画を立てましたか。まだの人は今からでも遅くありません。2025年（巳年）の目標を立てましょう。そして行動してみましょう！

災害時について再確認を

無事に新しい年を迎えることができたことを喜んでいます。ただ、1月1日はこれまで以上に特別な日となった1年前。12月末の【保健だより冬休み号】でアニバーサリー反応についてお伝えしましたが、この冬休み期間中はいかがだったでしょうか。学校でも弔旗を掲げて弔意を表しました。テレビ等では様々な報道がなされていました。それを見た子どもは、心や体に異変はありませんでしたか。私は1日のその時刻に黙禱を捧げましたが、夜は少々寝つきが良くありませんでした。携帯電話からあのけたましい恐怖の音が流れてくるのではないかと。子どもには、「家で、学校で、登下校中、遊んでいるなど、災害はいつ起こるか分からない。万一の時は安全行動を取り、自分の命を守る。」と指導しています。この機会に再度安全行動について、ご家庭でも家族で対話をしてみてください。

児童の交流に向けて

羽咋市教育委員会の「令和8年度4月統合」の方針を受けて、この3学期から羽咋小学校と学年間での交流を計画しています。オンラインでの授業交流やお互いの学校へ出掛けての交流行事などです。どのような交流ができるのか現在思案中です。一年間かけて、西北台小学校の子どもが羽咋小学校の子どもとともに安心して学ぶことができる体制を整えていきます。そのためには、子どもそして保護者の方の考えやアイデアもお借りすることになりますので、なにとぞよろしくお願いします。最初は1年生が実施予定（行事予定で確認を）。